

<静岡市の水素エネルギー利活用の方向性>

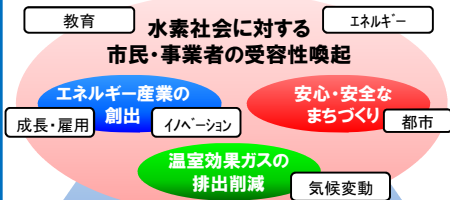
水素エネルギー利活用促進ビジョン

計画期間：2017年度から2030年度まで

目標

水素エネルギーを利活用した「静岡型水素タウン」の実現

<SDGs(※)と関連付けた基本的視点>



※ SDGs(持続可能な開発目標)とは、平成27年9月の国連サミットで採択された2030年度までの世界共通の目標(17のゴールと169のターゲット)

<目標達成に向けたプロジェクト>

(共通プロジェクト)
水素エネルギーの普及拡大

(都市部プロジェクト)
IoTを活用した
水素エネルギーの利活用

(港湾部プロジェクト)
清水港を活用した
水素エネルギーの利活用

(山間部プロジェクト)
未利用エネルギーを活用した
水素エネルギーの利活用

第2期静岡市水素エネルギー利活用促進アクションプラン

計画期間：2019年度から2020年度まで

具体的事業・指標

- ・事業内容
- ・スケジュール
- ・指標(現状、目標)

水素エネルギーを利活用した「静岡型水素タウン」の実現

水素エネルギー利活用促進ビジョン

【目標】

【目標達成に向けたプロジェクト】

水素エネルギーの普及拡大

理解の促進に向けた情報発信

燃料電池を活用した機器の普及拡大

新たな技術革新などに伴う水素エネルギー導入可能性の検討

共通プロジェクト

都市部プロジェクト

港湾部プロジェクト

山間部プロジェクト

水素エネルギー利活用促進アクションプラン

【具体的事業】

【指標】

★水素を活用した環境教育推進事業

科学館や小学校での環境教育実施

★FCVを活用した普及啓発事業

燃料電池自動車の導入、燃料電池自動車を保有する事業者との連携

★水素エネルギー普及啓発イベント開催事業

イベント開催準備、水素・燃料電池展の開催

★静岡市水素エネルギー利活用促進協議会運営事業

協議会の開催、先進地視察(必要に応じ)

★普及初期における導入支援事業

静岡型水素タウン促進事業補助金の実施

★水素需要拡大に向けた新技術開発等に対する支援事業

静岡型水素タウン新技術開発等促進事業補助金の創設

★未利用水素エネルギー利活用検討事業

未利用水素エネルギーの利活用、新たなキャリアの開発

★燃料電池バス導入に向けた検討

燃料電池バス導入に向けた検討、普及啓発事業の実施

<2018実績> <2020目標>

水素を活用したまちづくりを必要と思う市民の割合

32.6% ⇒ 41.3%

家庭用燃料電池
1,756台 ⇒ 5,600台

業務用燃料電池
1台 ⇒ 2台

燃料電池自動車
22台 ⇒ 50台

環境教育などの実施者数
6,005人 ⇒ 10,000人

燃料電池バス
0台 ⇒ 1台

水素ステーション整備に向けた事業スキームの構築
- ⇒ 構築

水素供給設備整備に向けた総合調整
- ⇒ 実施

港湾部における水素需要創出モデルの構築
- ⇒ 構築

周辺市町との連携
1自治体 ⇒ 3自治体

温泉付随ガス可能性調査
- ⇒ 実施

水素生成リアクターの実証実験
- ⇒ 完了

★スマートインターチェンジ活用検討事業

FCVユーザー向けの特典検討

路外充填実証の実施に向けた調整

★新たな水素ステーション整備に向けた検討事業

ステーション整備、FCV普及策の検討を行う分科会の設置

★水素供給設備整備事業

特区認定などに向けた課題抽出、事業採算性調査の実施

★清水みなとエリアにおける水素サプライチェーン構築事業

港湾部におけるエリア開発、水素供給基地整備に向けた検討を行う分科会の設置

★周辺市町と連携した需要創出事業

オフサイト型水素ステーションの検討

しずおか中部連携中枢都市圏域での普及啓発

★温泉付随ガス可能性調査事業

中山間地域での適地調査(民間施設も含む。)

★微生物を用いた水素製造調査研究事業

水素生成リアクターの実証実験

IoTを活用した水素エネルギーの利活用

スマートICの有効活用

FCVの普及拡大につながる水素インフラの拡大

街区全体のエネルギーをIoT技術を活用し最適な管理

清水港を活用した水素エネルギーの利活用

国際貿易港「清水港」への水素供給基地の整備

周辺施設への水素供給

周辺地域への水素輸送

未利用エネルギーを活用した水素エネルギーの利活用

温泉付随ガスと微生物を活用した水素製造

周辺施設への水素供給

自立分散型エネルギーシステムの構築